

熊本県の畜産の概要

令和6年（2024年）4月

熊本県農林水産部生産経営局畜産課

全国の農業における熊本県農業の地位

1 主要農産物の生産量

- ① 農業生産の主要な担い手である認定農業者数は全国第3位、基幹的農業従事者数は第4位
- ② 令和4年農業産出額は全国第5位、畜産産出額は第4位
- ③ 主要品目の生産量をみると、トマト、すいかなどが全国第1位

区分		単位	全国	九州	熊本県	熊本県の全国に占める	
						順位	割合(%)
農業経営体数（R4年）		千経営体	975.1	150.2	31.8	8	3.3
認定農業者数（R4.3月末）		千人	222.4	43.8	10.1	3	4.5
基幹的農業従事者数（R4年）		千人	1225.5	204.3	47.8	4	3.9
耕地面積（R4年）		千ha	4325.0	511.1	105.9	13	2.4
農業算出額（R4年）		億円	90,147	18,208	3,512	5	3.9
畜産産出額（R4年）		億円	34,673	8,978	1,323	6	3.8
生産農業所得（R4年）		億円	31,826	6,701	1,446	4	4.5
主要農産物の収穫量等	トマト（R3年）	千t	725.2	200.2	132.5	1	18.3
	すいか（R3年）	千t	319.6	...	49.3	1	15.4
	不知火類（デコポン）（R2年）	千t	46.6	...	19.6	1	42.1
	葉たばこ（販売量）（R3年）	千t	14.2	7.6	2.7	1	18.9
	いぐさ（R3年）	千t	6.4	...	6.4	1	99.5
	宿根カスミソウ（R3年）	千本	50,800	...	19,600	1	38.6
	カリフラワー（R3年）	千t	21.6	...	2.5	1	11.7
	なす（R3年）	千t	297.7	62.9	33.3	2	11.2
	メロン（R3年）	千t	150.0	...	25.4	2	16.9
	しょうが（R3年）	千t	48.5	...	5.2	2	10.8
	なつみかん（R2年）	千t	30.1	...	6.2	2	20.6
	くり（R3年）	千t	15.7	...	2.2	2	14.1
	トルコギキョウ（R3年）	千本	85,400	...	10,600	2	12.4
	いちご（R3年）	千t	164.8	...	12.1	3	7.3
	アスパラガス（R3年）	千t	25.2	...	2.4	3	9.4
	うんしゅうみかん（R3年）	千t	749.0	...	90.0	4	12.0
	かんしょ（R3年）	千t	671.9	...	18.0	6	2.7
	水稲（R4年）	千t	7,269.0	741.3	156.8	16	2.2
	生乳生産量（R5年）	千t	7,298.9	582.0	256.3	3	3.5
	乳用牛飼養頭数（R5.2月）	千頭	1,356.0	102.1	43.8	3	3.2
	肉用牛飼養頭数（R5.2月）	千頭	2,687.0	977.4	139.1	4	5.2
	肉豚飼養頭数（R5.2月）	千頭	8,956	2,818	338	9	3.8
	採卵鶏飼養羽数（R5.2月）	千羽	172,265	23,815	2,586	23	1.5
	ブロイラー飼養羽数（R5.2月）	千羽	141,463	74,113	3,969	7	2.8

(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」、「畜産統計」等

2 家畜飼養頭羽数の全国順位

畜種	全国順位	都道府県	飼養頭羽数	飼養戸数	1戸当たり
乳用牛		全国	1,356,000頭	12,600戸	107.6頭
	1	北海道	842,700頭	5,380戸	156.6頭
	2	栃木	54,000頭	592戸	91.2頭
	3	熊本	43,800頭	467戸	93.8頭
	4	岩手	40,200頭	728戸	55.2頭
R5.2	5	群馬	32,900頭	379戸	86.8頭
肉用牛		全国	2,120,000頭	36,400戸	58.2頭
	1	北海道	566,400頭	2,180戸	259.8頭
	2	鹿児島	357,800頭	6,350戸	56.3頭
	3	宮崎	260,200頭	4,700戸	55.4頭
	4	熊本	139,100頭	2,090戸	66.6頭
R5.2	5	長崎	91,700頭	2,080戸	44.1頭
豚		全国	8,956,000頭	3,370戸	2,657.6頭
	1	鹿児島	1,153,000頭	443戸	2,602.7頭
	2	宮崎	818,200頭	295戸	2,773.6頭
	3	北海道	759,600頭	191戸	3,977.0頭
	4	群馬	593,700頭	172戸	3,451.7頭
R5.2	5	千葉	588,400頭	223戸	2,638.6頭
	9	熊本	338,000頭	143戸	2,363.6頭
採卵鶏 (成鶏雌のみ)		全国	128,579千羽	1,690戸	76.1千羽
	1	茨城	9,732千羽	87戸	111.9千羽
	2	千葉	9,690千羽	91戸	106.5千羽
	3	鹿児島	8,281千羽	93戸	89.0千羽
	4	愛知	6,346千羽	108戸	58.8千羽
R5.2	5	岡山	5,868千羽	57戸	102.9千羽
	23	熊本	2,068千羽	35戸	59.1千羽
ブロイラー		全国	141,463千羽	2,100戸	67.4千羽
	1	鹿児島	31,285千羽	390戸	80.2千羽
	2	宮崎	28,254千羽	462戸	61.2千羽
	3	岩手	20,766千羽	295戸	70.4千羽
	4	青森	6,905千羽	60戸	115.1千羽
R5.2	5	北海道	5,364千羽	8戸	670.5千羽
	7	熊本	3,969千羽	63戸	63.0千羽

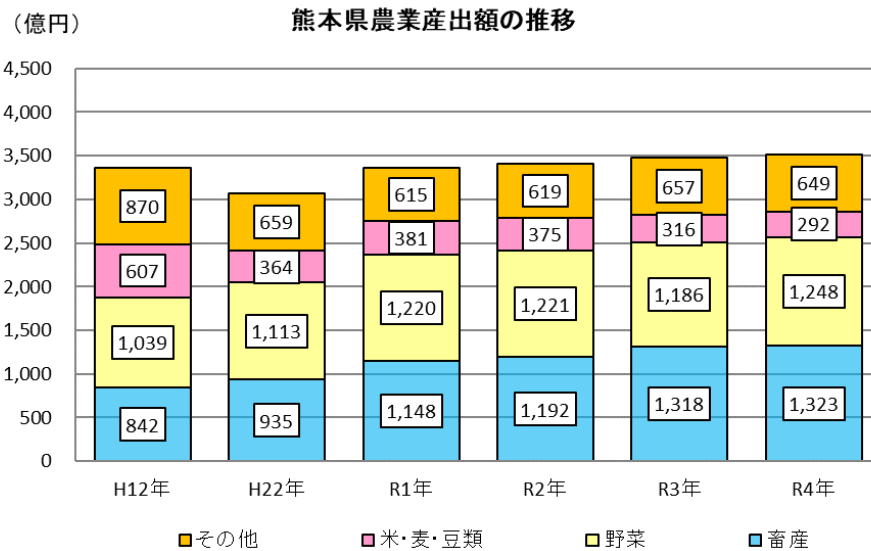
資料：農林水産省「畜産統計(R5年)」

令和4年熊本県の農業産出額

1 農業産出額の推移

平成2年には過去最高の4,016億円となったが、近年は横ばい傾向が続き、令和4年は3,512億円（全国第5位）となった。

令和4年の農業産出額の主要部門別構成割合をみると畜産部門が最も多い37.7%を占め、県農業の重要な部門となっており、次いで野菜（35.5%）となっている。

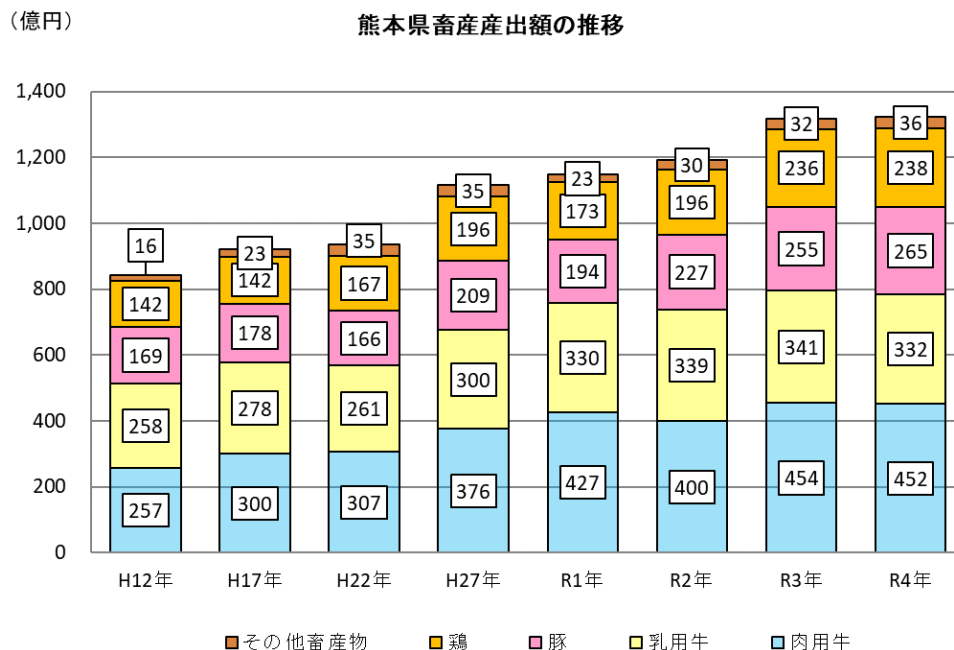


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2 畜産産出額の推移

畜産産出額は、牛肉輸入自由化の影響等により平成3年以降は1,000億円を下回って推移していたが、近年増加傾向で推移し、令和4年は1,323億円となった。

畜種別では、肉用牛が452億円（畜産産出額に占める割合34.2%）と最も高く、次いで乳用牛332億円（同25.1%）、豚265億円（同20.0%）、鶏238億円（同18.0%）の順となっている。



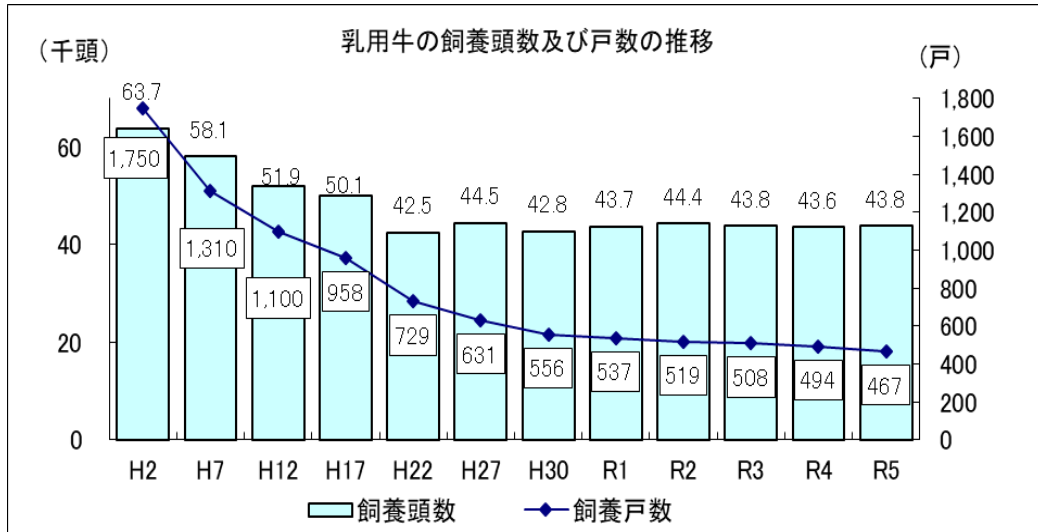
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

部 門 別 の 現 況

1 乳用牛

(1) 飼養の状況（令和5年）

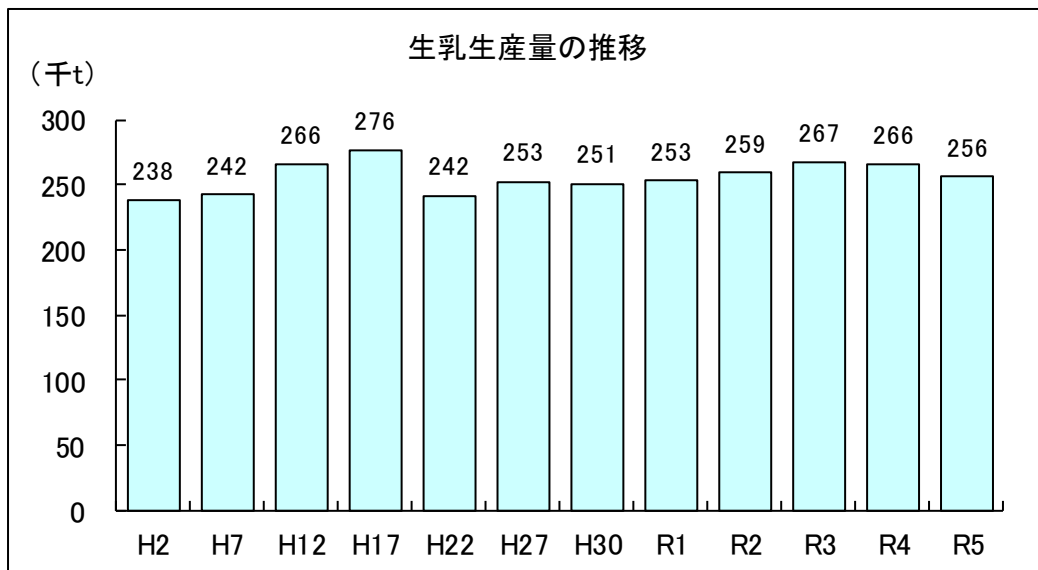
- ・飼養戸数：467戸（前年比5.5%減）、年々減少。
- ・飼養頭数：43,800頭（前年比0.5%増）、一戸当たりの飼養頭数は増加傾向。



資料：農林水産省「畜産統計」

(2) 生乳生産量（令和5年）

- ・生乳生産量：256.3千トン（前年3.6%減）、西日本第1位



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

2 肉用牛

(1) 飼養の状況（令和5年）

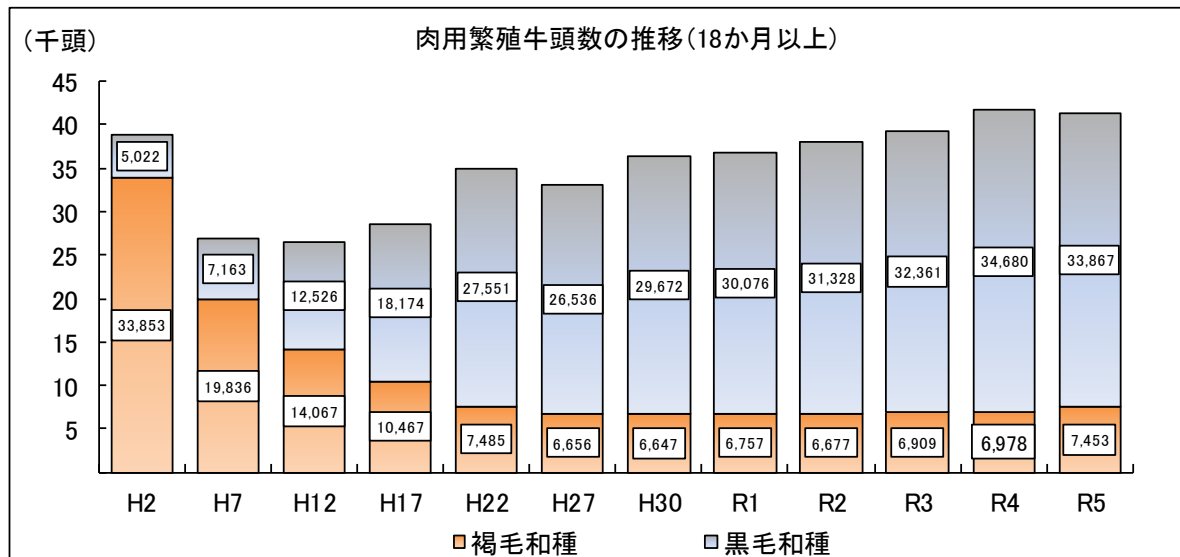
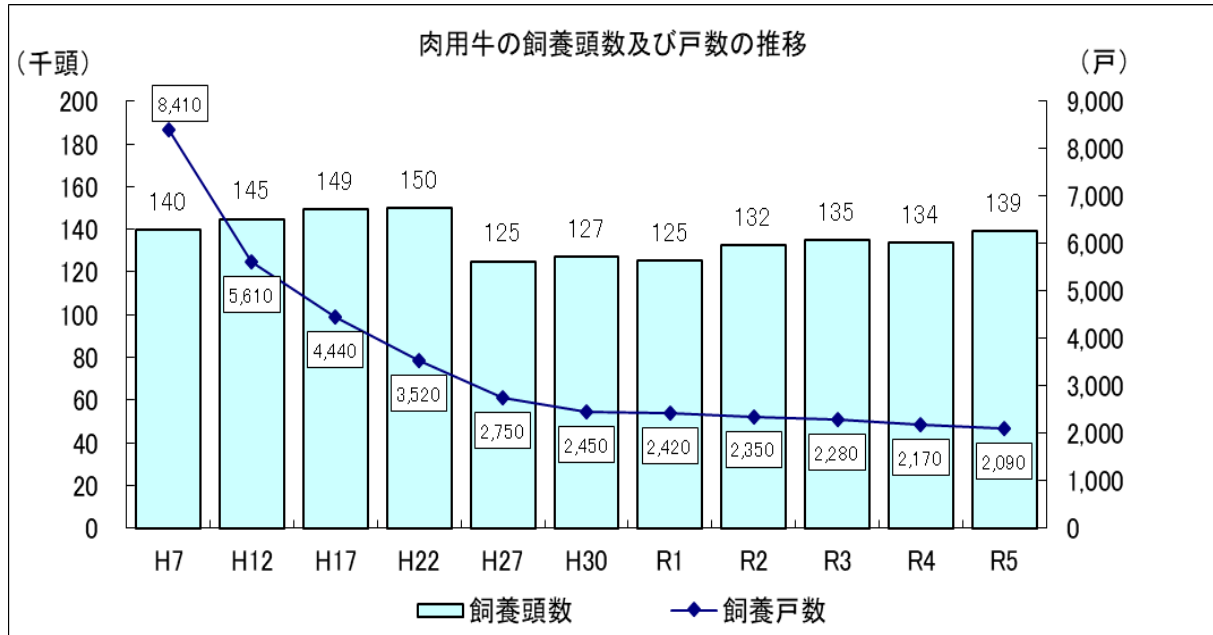
・飼養戸数：2,090戸（前年比3.7%減）、年々減少。

・飼養頭数：139,100頭（前年比4.1%増）

・繁殖雌牛飼養頭数：41,320頭（前年比0.8%減）

うち黒毛和種33,867頭（前年比2.3%減、肉用繁殖牛に占める割合82.0%）

うち褐毛和種 7,453頭（前年比6.8%増、肉用繁殖牛に占める割合18.0%）



資料：「熊本県畜産統計」（熊本県）

注）調査時点は、平成23年度以前は各年の12月31日。

平成24年度以降は、各年の2月1日。

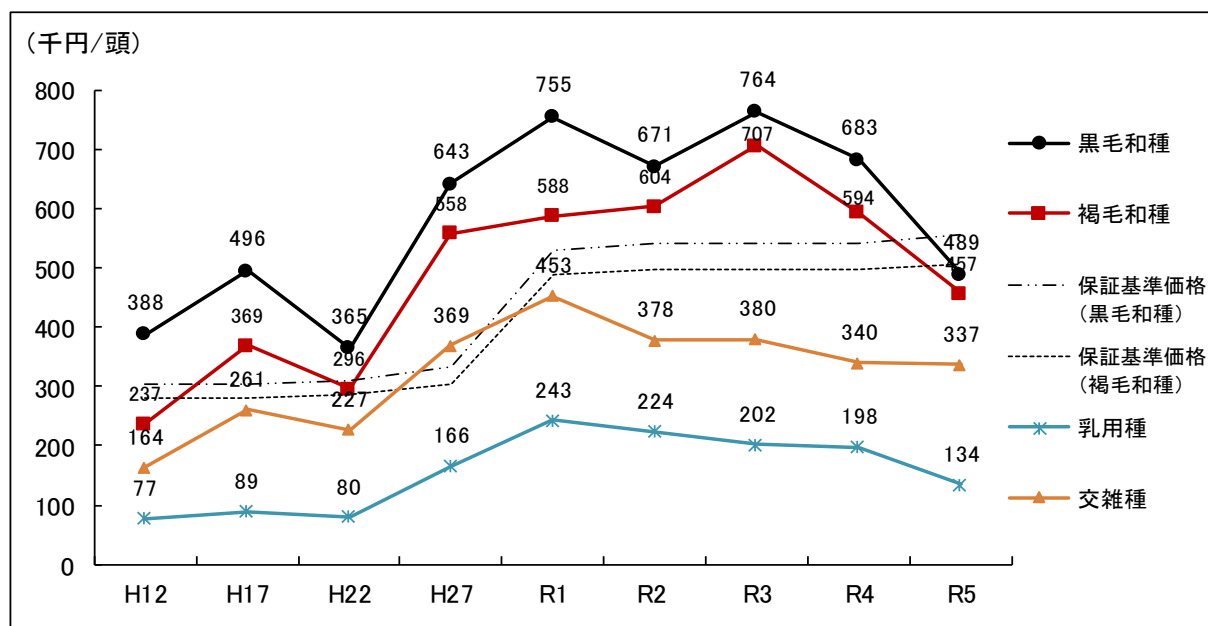
(2) 肉用子牛の価格（令和5年）

- ・黒毛和種 489千円（前年比28.4%減）直近（R6.3月）582千円 ※速報値
- ・褐毛和種 457千円（前年比23.0%減）直近（R6.3月）607千円 ※速報値

子牛価格について、平成24年度以降は全国的な繁殖雌牛の減少により子牛の分娩頭数が減少したことに加え、枝肉価格が上昇したことから、肉用子牛価格も上昇し、過去20年で最高水準で推移。

令和2年は、黒毛和種の価格が、新型コロナウイルス感染症の影響による外食及びインバウンド需要の減少の影響を大きく受け、前年を下回って推移した。一方、褐毛和種は、全国的な赤身ブーム等により枝肉の引きも強く、子牛価格も前年比を上回って推移した。

令和4年は、配合飼料価格高騰の影響による肥育農家の買い控えと考えられる子牛価格相場の低下がみられ、さらに令和5年度は、円安や物価高騰の影響等により生産費が上昇したため、子牛価格が低下した。



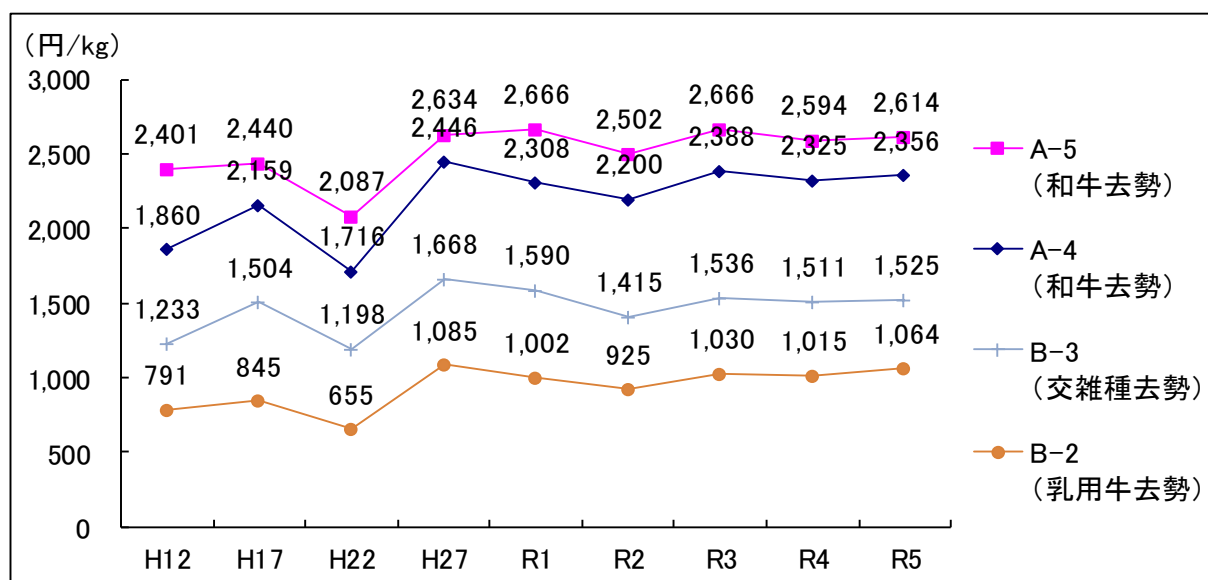
資料：(独)農畜産業振興機構公表値（H16年までは（公社）熊本県畜産協会集計値）
参考：R3年度から、集計の対象となる条件を変更。

(3) 牛枝肉の価格（令和5年度、卸売価格）

- ・和牛去勢A-5 2,614円（前年比0.8%増） 直近（R6.4月）2,530円
- ・和牛去勢A-4 2,356円（前年比1.3%増） 直近（R6.4月）2,179円
- ・交雑牛去勢B-3 1,525円（前年比0.9%増） 直近（R6.4月）1,546円
- ・乳用牛去勢B-2 1,064円（前年比4.8%増） 直近（R6.4月）877円

牛枝肉の卸売価格は、平成13年9月の国内BSE発生、平成23年3月の東日本大震災により一時的に低落した。23年度後半からは、生産量の減少により価格が上昇し、28年度には過去最高水準まで高騰し、その後も高値で推移した。

令和5年度は、新型コロナウイルスが「5類感染症」へ移行したことによる消費拡大及び和牛の輸出量増加が牛枝肉価格を底支えしており、和牛去勢A-5で2,614円/kgと昨年度平均をやや上回っている。

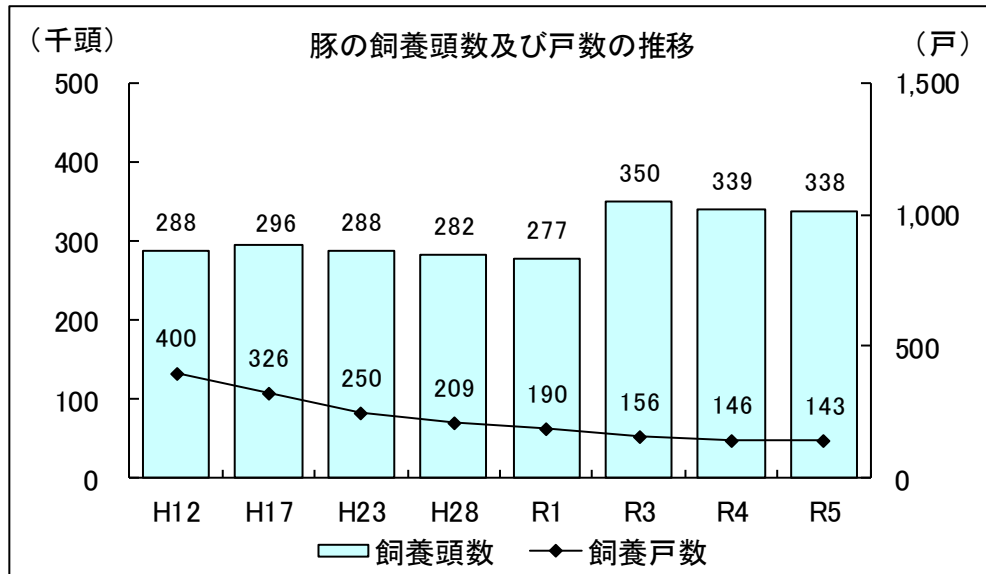


資料：農林水産省「食肉流通統計」（東京市場）

3 豚

(1) 飼養の状況（令和5年）

- ・飼養戸数：143戸（前年比2.1%減）。
- ・飼養頭数：338,000頭（前年比0.4%減）。



資料：農林水産省「畜産統計」

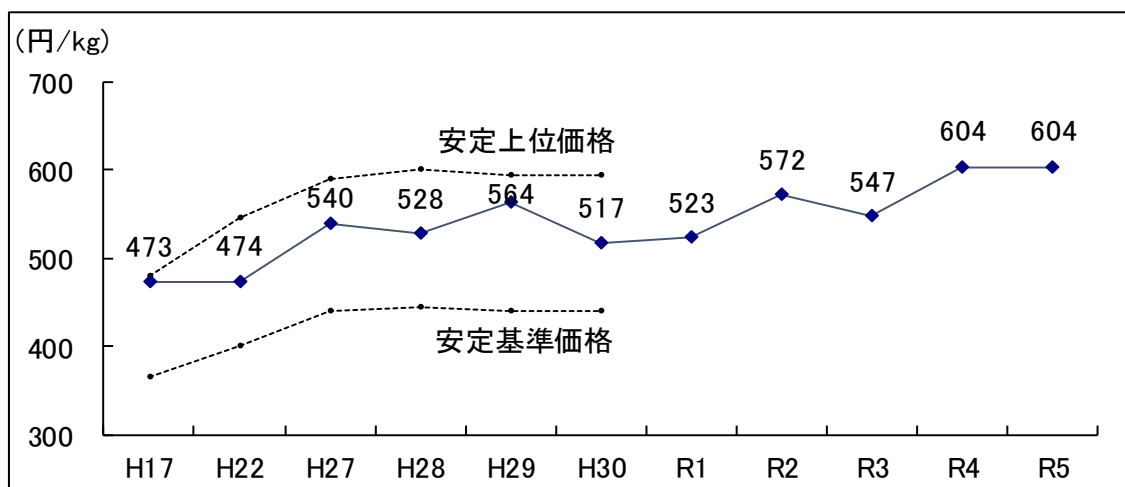
(2) 豚枝肉の価格（令和5年度、卸売価格）

- ・604円/kg（前年比0.0%） 直近（R6.3月）549円

平成26年度から29年度にかけては、25年度の猛暑の影響、国内における豚流行性下痢（PED）発生の影響等によって出荷頭数が減少したことから、高水準で推移した。

令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛が広がったことから巣ごもり需要が増大し価格も上昇した。

令和4～5年度は、円安の影響により輸入豚肉の価格が上昇していることから、国産豚肉への需要が増しており、高値で推移している。

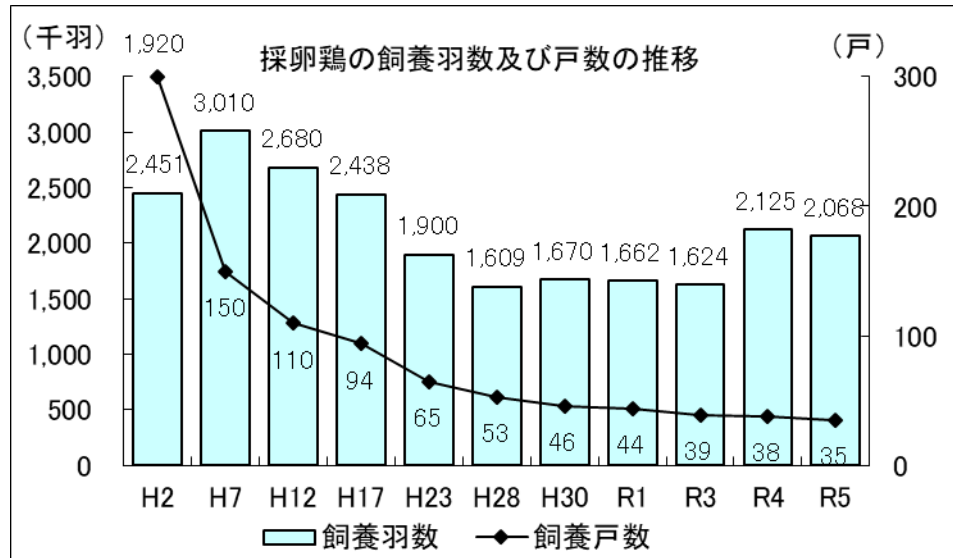


資料：農林水産省「食肉鶏卵速報」

4 採卵鶏

(1) 飼養の状況（令和5年）

- ・飼養戸数：35戸（前年比7.9%減）
- ・飼養羽数：2,586千羽（前年比3.7%増）



※グラフの飼養頭羽数は成鶏雌のみ

資料：農林水産省「畜産統計」

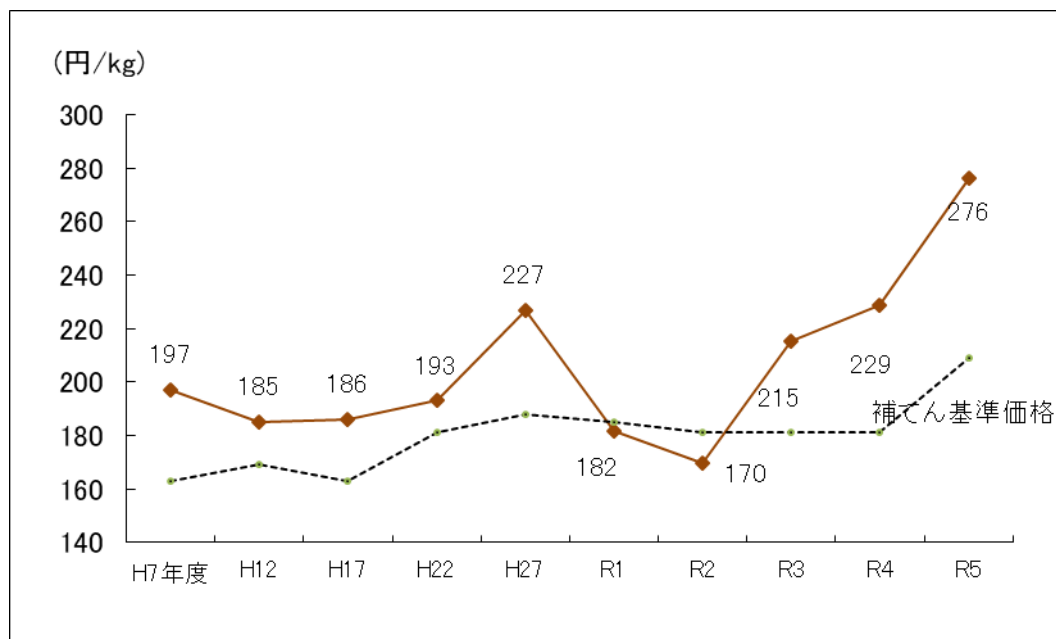
(2) 鶏卵の価格（令和5年、卸売価格）

- ・276 円/kg（前年比 20.6%増） 直近（R6.4 月）218 円/kg

鶏卵の自給率は高く、需要も概ね安定的に推移していることから、生産量のわずかな増減が価格の動向に大きく反映される傾向にある。25年夏以降、需要が旺盛であったことから29年末までは高水準で推移。しかし、高価格に反応した生産者が生産拡大したことにより、価格が低迷し、30年以降成鶏更新・空舎延長事業が毎年発動する状況が続いた。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要が低迷したことが鶏卵価格下落の大きな要因となり、鶏卵価格差補填事業や成鶏更新・空舎延長事業の発動が続いたが、鶏卵価格補填事業については、積立金が不足したことから R2.9 月以降発動停止となった。

令和2年の秋以降の価格は、国内で高病原性鳥インフルエンザが多発したことから需給のバランスが崩れ、令和4年10月以降の高病原性鳥インフルエンザの影響で卸売価格は更に上昇したが、令和5年度は高病原性鳥インフルエンザ発生が少なく、以前発生した農場での再導入が進んだことから価格は下落傾向となった。

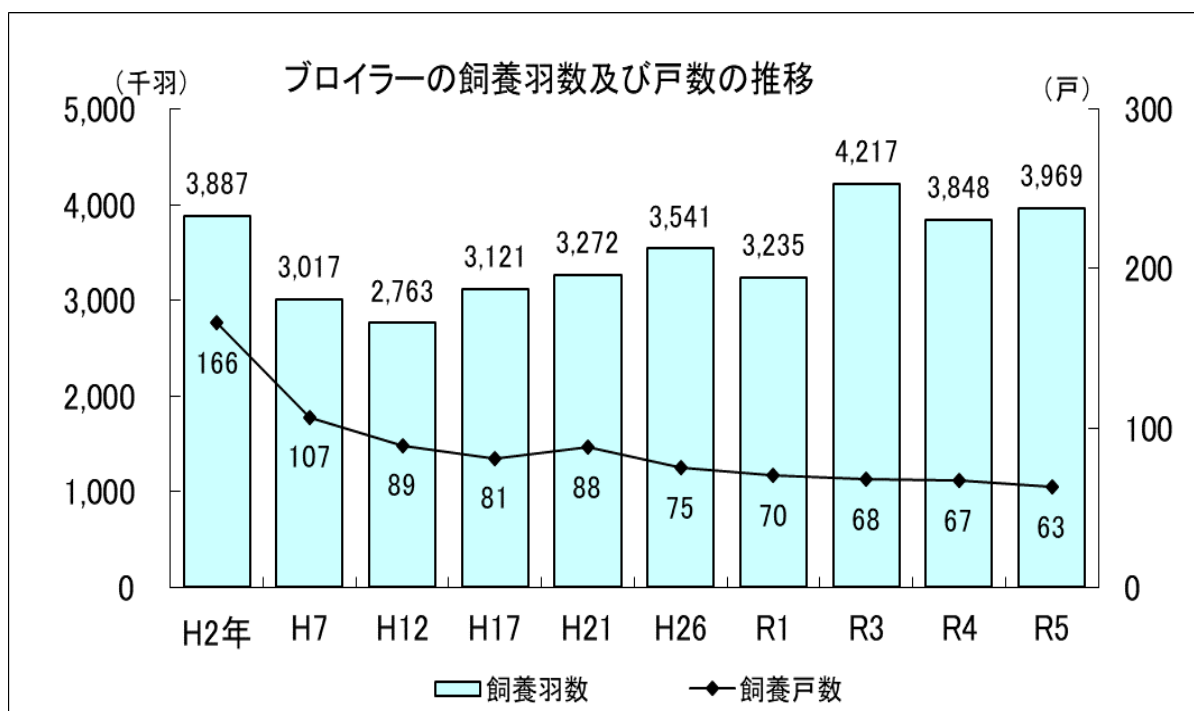


資料：農畜産業振興機構「鶏卵の価格」、株式会社 JA 全農たまご（東京 M）

5 ブロイラー

（１）飼養の状況（令和５年）

- ・飼養戸数：63 戸（前年比 6.0%減）
- ・飼養羽数：3,969 千羽（前年比 3.1%増）



資料：農林水産省「畜産統計」

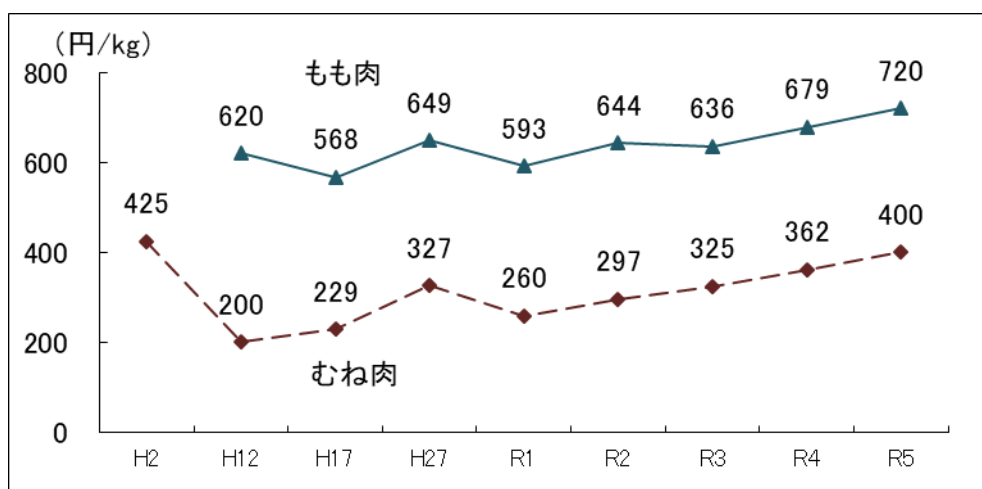
(2) ブロイラーの価格（令和5年度、卸売価格）

- ・ もも肉：720円/kg（前年比 6.0%増） 直近（R6.3月）687円
- ・ むね肉：400円/kg（前年比10.5%増） 直近（R6.3月）385円

もも肉・むね肉いずれの価格も、健康志向の高まり等を背景に高水準に推移。

もも肉に対する嗜好が高く、むね肉の約2倍の価格で推移。近年、むね肉もサラダチキン等加工品を中心に需要を伸ばしている。令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により巣ごもり需要の高まりを受け、高値で推移した。

直近では、豚肉と同様に円安の影響により輸入鶏肉の価格が上昇しており、国産鶏肉の需要が拡大。また、物価高による節約志向から牛肉や豚肉よりも安価な鶏肉は需要が高く、卸売価格は上昇している。



資料：農林水産省「食鳥市況情報」

6 養蜂

(1) 飼養の状況（令和4年）

- ・ 飼養戸数：243戸（前年比6.1%増）、近年は増加傾向で推移。
- ・ 蜂群数：12.4千群（前年比6.8%減）、近年は増加傾向で推移。
- ・ 蜂蜜生産量（令和4年）：239t（前年比0.8%増）、近年は増加傾向。

養蜂の飼育動向														単位：戸、千群、トン	
年次	H7	H12	H17	H22	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	順位	
飼育戸数															
全国	7,235	5,342	4,790	5,353	9,567	9,452	9,325	9,578	9,782	10,021	10,529	11,276	11,416		
熊本県	157	122	93	94	129	124	128	147	173	196	195	229	243		
蜂群数															
全国	214	184	178	175	213	212	213	213	215	213	224	242	237		
熊本県	13.8	12.0	10.5	10.4	10.4	11.2	11.5	11.7	11.8	12.1	12.5	13.3	12.4	4位	
蜂蜜生産量															
全国	3,362	3,024	2,892	2,639	2,865	2,754	2,827	2,826	2,911	2,929	2,745	2,527			
熊本県	-	-	-	205	195	206	213	192	202	222	237	239		2位	

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」

7 農用馬

(1) 飼養状況（令和4年）

- ・飼養戸数：83 戸（前年比 10.8%減）
- ・飼養頭数：重種馬（繁殖）254 頭（前年比 57.0%増）
肥育馬頭数：4,990 頭（前年比 33.9%増）

馬の飼養戸数及び飼養頭数の推移

（単位：戸、頭）

		H10	H20	H27	R1	R2	R3	R4
飼養戸数	（全国）※1			4,799	4,536	4,474		
	（熊本県）※2	184	106	125	98	96	93	83
総飼養頭数	（全国）※1	111,330	83,152	69,041	78,247	77,762		
	（熊本県）※2	3,832	5,085	4,128	4,933	4,390	4,424	3,947

※1：（公社）日本馬事協会まとめ

※2：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月21日、H24～は各年度の2月1日
（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

重種馬（繁殖）頭数は、H29～R1 は 300 頭を割り込んでいたが、R2 以降 300 頭超で推移位している。

重種馬頭数及び子馬生産頭数の推移（1才以上）

（単位：戸、頭）

		H10	H20	H27	R1	R2	R3	R4
重種馬（繁殖） （明け2才以上）	（全国）※1			1,896	1,950	1,878		
	（熊本県）※2	310	162	243	221	347	332	254
（参考） 子馬頭数	（全国）※1			1,101	1,041	1,020	1,341	1,283
	（熊本県）※2	135	85	80	96	93	69	62

※1：（公社）日本馬事協会まとめ

※2：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月21日、H24～は各年度の2月1日
（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

肥育馬頭数は、平成23年に発生した生食用馬肉の食中毒等の影響による馬刺しの需要の低下や、カナダ産肥育素馬の高騰等の影響もあり、一時減少したが、現在は回復傾向で推移。

直近のと畜頭数は、全国で年間約 11,000 頭、うち熊本県は約 4 割を占めている。

肥育馬頭数及びと畜頭数の推移

（単位：戸、頭）

		H10	H20	H27	R1	R2	R3	R4
肥育馬	（熊本県）※2	2,258	4,195	3,148	4,146	3,296	3,492	3,197
と畜頭数	（全国）※3	20,200	15,003	12,466	10,297	10,291	11,367	11,198
	（熊本県）※3	7,576	7,062	5,642	4,334	4,403	4,990	4,904

※2：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月31日、H24～は各年度の2月1日）

（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

※3：農水省「畜産物流通統計」

8 飼料作物

(1) 作付の状況（令和5年）

- ・ トウモロコシ : 3,580ha（前年比16.2%増）
- ・ ソルガム : 900ha（前年比41.1%増）
- ・ 牧草 : 14,880ha（前年比 4.8%増）
- ・ 稲WCS : 7,760ha（前年比 8.9%減）
- ・ 飼料用米 : 1,250ha（前年比25.2%減）

近年は、青刈リトウモロコシとソルガムが減少をみせる一方で、稲WCSと飼料用米は増加し、飼料作物全体の面積は横ばいの傾向を示していた。

令和5年度は、輸入飼料価格高騰の影響から自給飼料生産面積はいずれも増加した。

区分	単位	H2年	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4	R5
青刈リトウモロコシ	ha	9,070	6,670	6,080	4,590	4,330	3,720	3,410	3,400	3,210	3,060	3,080	3,580
ソルガム	ha	3,110	2,180	1,990	1,340	1,420	965	768	744	756	713	638	900
牧草	ha	16,300	14,900	13,100	13,100	12,900	14,300	14,400	14,400	14,400	14,400	14,200	14,880
飼料用稲	稲WCS	ha	—	—	143	1,144	3,308	6,987	7,748	7,757	7,852	7,994	8,519
	飼料用米	ha	—	—	—	654	1,296	1,269	1,175	1,135	1,295	1,672	1,646
計	ha	28,480	23,750	21,313	20,174	22,612	27,268	27,595	27,476	27,353	27,462	28,109	28,527

資料）農林水産省「耕地及び作物面積統計」及び「新規需要米の取組計画認定状況」